

宮崎日日新聞

THE MIYANICHI

2026年(令和8年)

2月1日(日)

3

総合

2026年(令和8年)2月1日 日曜

下塚田の軽トラ市

新年に備えて慌ただしさも増す昨年12月下旬、日南市の山あい広がる静かな農村地域が一変、その光景に目も心も奪われた。

下塚田地区で開催された「第1回田んぼあぜ道軽トラ市」。絵に描いたような自然豊かな田園のあぜ道に軽トラ約50台が並ぶ。特産のかんきつ類や野菜などを買った袋を提げたり、周囲の景観を眺めたりする人々が行き交う。周辺道路も車で混雑。このにぎわい、壮観の一言に尽きる。

日曜論説



喜怒哀楽そして愛

日南支社長兼論説委員

秋吉 啓介

住民グループ「下塚田ふるさと応援隊」(作本眞悟会長)が主催した。地区は117人が住む高齢化率62%(同月時点)のいわゆる限界集落だ。存続に危機感を覚えた住民や出身者ら12人で2020年4月、応援隊を結成。人口減少が進む中、持続可能な地域社会を目指し、農業の担い手不足や農地・景観保全、その他さまざまな地域の課題解決に向け、取り組んでいる。活動内容・実績などは応援隊のホームページに詳細

発想と行動で輝く地域

にまとめられている。「共生・共創・共同」。三つの理念を旗印に、厳しい時代環境にあっても豊かな暮らしを追求して行動を起こすメンバーの情熱や本気度が伝わってくるので、閲覧してほしい。

話は軽トラ市に戻るが、開催1カ月前に実行委員長作本和弘さんが、告知記事掲載の相談で日南支社を訪ねて来た。こんな場所で大々的に軽トラ市をやる例は聞いたことがなく、「何かやらないと、10年後には消滅の恐れがある集落」とも訴える。話題性もさることながら、発想力と行動力

2026年2月1日